

子育て中の母親の外出時等に関するアンケート調査結果(抜粋)

2004.12

財団法人こども未来財団

調査概要

調査の目的 : 現在妊娠中もしくは3歳未満の子供を子育て中の母親を対象に、子育てを取り巻く社会に対する考え方、外出の実態、外出時の不安や困難などを聴取し、子育てに関する社会啓蒙活動の必要性や、具体的な支援策における優先事項・重要事項を把握することを目的とする。

調査方法 : インターネット調査(ADKインターネットリサーチシステムKnots)

調査エリア : 全国

対象者条件 : 18歳～49歳既婚女性で、妊娠中もしくは出産後3年未満の方

有効回収数 : 1069サンプル

[内訳]

妊娠中 340s

出産後3年未満 628s

妊娠中かつ出産後3年未満 101s

調査期間 : 2004年 11月22～23日

集計・分析方法 : クロス集計 / 因子分析・クラスター分析

母親の社会に対する基本意識と社会意識啓蒙活動の必要性

父親への育児参加を望む声がトップの93%を占める。

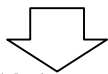
子育て中・妊娠中の立場からみて、周囲や世間の人々に対してどう感じているかを聞いた。最も「そう思う」の比率が高かったのは「男性の子育てに対する理解と協力が必要」で、9割以上がまずは父親の育児参加を望んでいることがわかる。また、「社会全体で見守る雰囲気」が欲しい」「制度や設備整備だけでは不十分。国民の意識改革が必要」「子供を産みたい・育てたい社会ではない」の項目も8割以上が「そう思う」と答えており、社会全体の育児支援に対する意識面での改革が強く望まれている。

子育てを取り巻く社会への不満と不安

子どもを産みたい、育てたいと思える社会ではない 80%

社会全体が妊娠や子育てに無関心・冷たい 44%

不安や悩みを打ち明けたり、相談する相手がいない 21%



暖かく見守る社会への意識改革が急務

子どもは社会の財産。社会全体で暖かく見守る雰囲気がほしい 87%

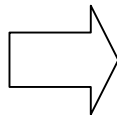
制度や整備が整うだけでは不十分。国民全体の意識改革が必要だ 83%

子育てを応援する社会とは思えない。1日も早く改善してほしい 77%

【表：1】

< 周囲や世間の人々に対してどのように感じていますか > N=1069

	そう思う ・計	(%)	
		非常に そう思う	まあ そう思う
暖かく見守られたり、手助けされたりしていると感じる	64.2	14.7	49.5
社会全体が妊娠や子育てに無関心・冷たい	44.2	11.3	32.9
子どもは国や社会の財産、社会全体で暖かく見守る雰囲気が欲しい	87.2	48.3	38.9
男性も家事能力を高め、子育てに対する理解と協力が必要	93.3	52.8	40.5
積極的に子どもを産みたい、育てたいと思える社会ではない	80.2	41.9	38.3
子育てを応援する社会とは思えない。一日も早く改善して欲しい	77.4	40.5	36.9
社会から隔絶され、自分が孤立しているように感じる	48.8	20.1	28.7
地域全体で子どもを育てたり、しつけたりすることが必要	76.3	27.1	49.2
子育てに関して、社会や地域の人々になるべく干渉されたくない	19.8	3.7	16.1
不安や悩みを打ち明けたり、相談する相手がいない	21.0	4.5	16.5
子育てしやすい社会に向けて自ら積極的に働きかけていきたい	45.9	9.4	36.5
制度や設備が整うだけでは不十分。国民全体の意識改革が必要だ	82.9	40.3	42.6



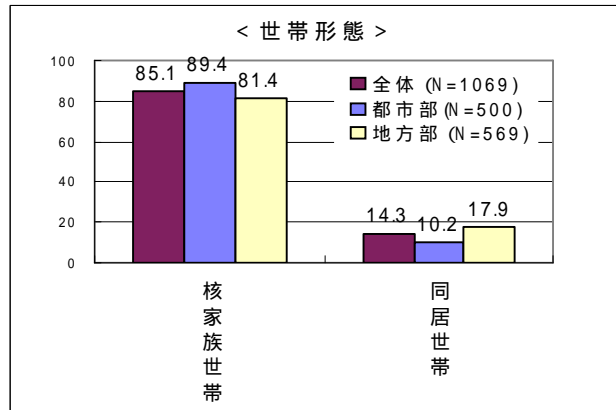
子育てを見守る社会の側の意識啓蒙活動への取り組みが急務

母親の子育て環境の実態と外出先社会の受け入れ体制整備の必要性

核家族世帯85%、都市部で核家族比率が高い

全体の85%の世帯が親や祖父母と同居していない核家族世帯。都市部ではほぼ9割、地方部でも8割を越えており、全国的に核家族傾向が進んでいる。こうした世帯形態が母親の孤立しやすい育児環境の一因となっているとみられる。

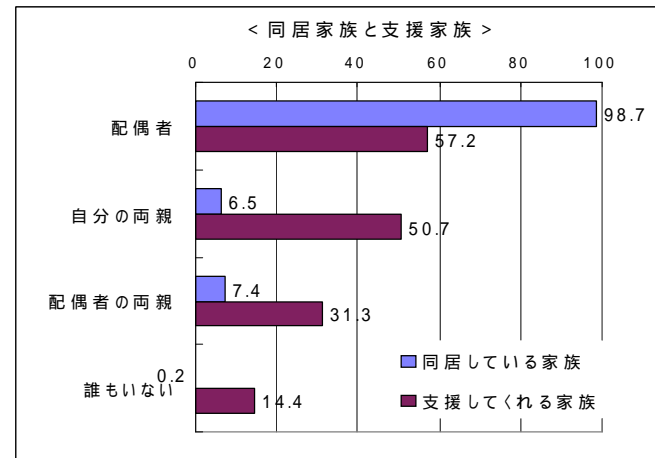
【表:2】



配偶者の子育て支援がある人は57%にとどまる

配偶者の同居率はきわめて高いが、配偶者が育児を支援してくれると回答した人は6割に満たない。両親との同居率は低い、自分の両親からの支援は5割の人が受けており、配偶者の両親よりも2割ほど高い。「支援家族が誰もいない」と回答した人は15%近く存在する。

【表:3】



孤立化しやすい育児環境

核家族世帯 85%
(都市部 89% 【表:2】)

配偶者の支援 57% 【表:3】

支援家族が誰もいない 14% 【表:3】

社会から隔絶され、自分が孤立しているように感じる 49% 【表:1】

不安や悩みを打ち明けたり、相談する相手がいない 21% 【表:1】

男性や地域の育児参加が望まれている

男性も育児や家事能力を高め、子育てに対する理解と協力が必要 93% 【表:1】

地域全体で子どもを育てたり、しつれたりすることが必要 76% 【表:1】

社会に出ようとする外出意欲は高い

外出積極派 27%
まあ積極派 70% 【表:4】

母親自身の気分転換に外出は不可欠

気分転換や気晴らしで外出 89% 【表:5】

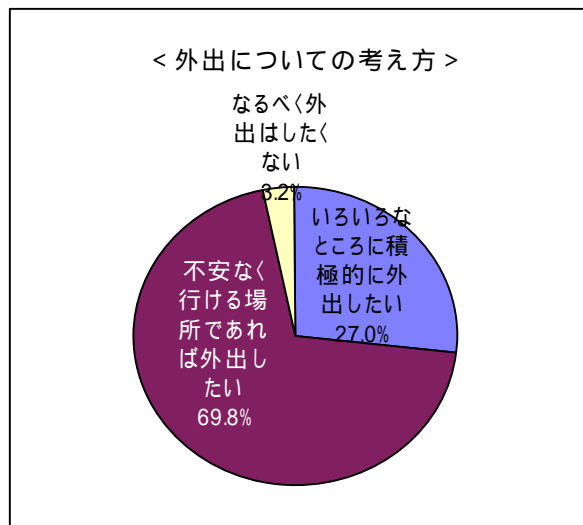
孤立化を防止するためにも、外出しやすい社会体制が必要

子連れ・妊娠中の外出実態

ほとんど母親が外出への意欲を持っている

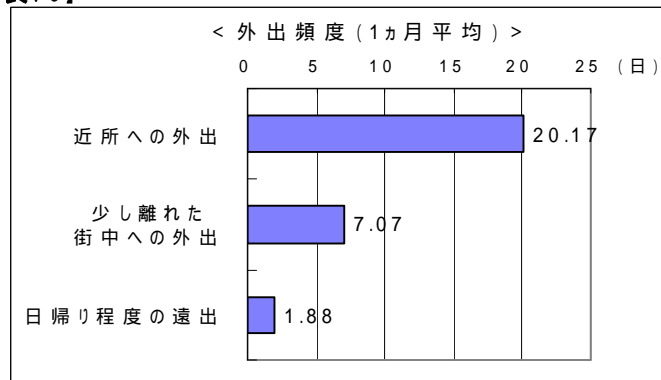
「いろいろなところに積極的に外出したい」という母親は27%、「不安なく行ける場所であれば外出したい」の7割と合わせて97%の母親が子連れや妊娠中でも外出したいと考えている。

【表: 4】



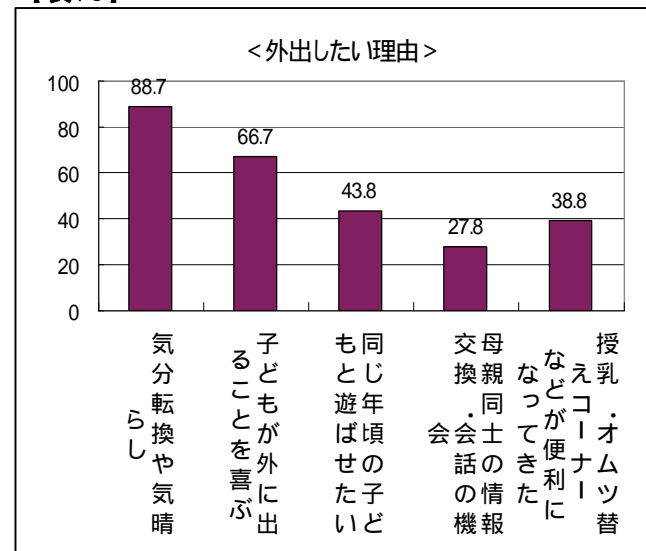
1ヵ月あたりの外出頻度「近所への外出」が最も多く20.17日、「ほぼ毎日外出」するという人が5割に達した。「街中への外出」は1週間に1回程度、「日帰り程度の遠出」となると1ヵ月に2日弱。

【表: 6】



外出したい理由として最も多くあげられたのが「気分転換や気晴らし」(88.7%)であり、母親自身のリフレッシュのために外出は欠かせないものとなっている。また、「授乳・オムツ替えコーナーなどが便利になってきた」とする人は4割弱で、子連れでも外出しやすい社会への兆しは一部には評価されてきているが、まだ十分とはいえない現状がうかがえる。

【表: 5】



行ける場所が限られ、行動範囲は狭くないがち

子連れ・妊娠中の外出における不安・困難の要因

「気疲れ」「身体の疲れ」が2大阻害要因

・「周囲への迷惑による気疲れ」「身体が疲れる」が2大阻害要因。支援家族がいない層では「手助けしてもらえない」「理解が得られず嫌な思いをする」も高い傾向。支援家族がいるかいないかが、外出意識に影響しているとみられる。また、外出消極派層はプラスの動機はきわめて低く、「周囲への迷惑による気疲れ」「身体が疲れる」をあげる人が6割を越えている

「迷惑かけるのではないか」という気疲れ
34%

外出すると身体が疲れる
30%

< 不安を感じる場所 >

混み合った場所や交通機関

- ・人ごみを歩いているとき 68%
- ・混雑した電車に乗っているとき(都市部) 79%
- ・バスに乗っている時(都市部) 34%

階段・段差の多い場所

- ・段差の多い歩道のベビーカー移動 53%
- ・階段の上り下り 51%

ひと目が気になる場所

- ・喫茶店やレストラン 40%
- ・スーパーやデパート 31%

< 実際にあった危険や困難 >

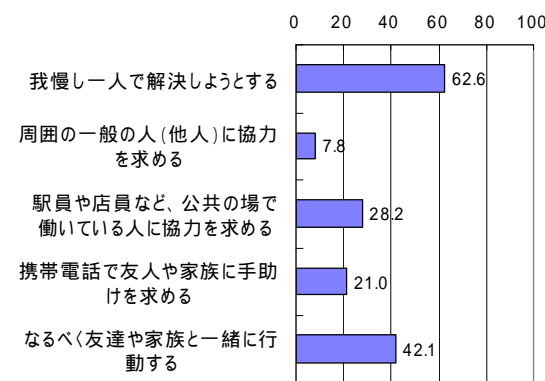
実際に危険な目にあつた 93%

- ・タバコの煙がただよってきた 56%
- ・利用しやすいトイレがない 51%
- ・階段の上り下りに苦労した 47%
- ・エレベータのスロープがない 39%
- ・混んだ車内でベビーカーをたたむ 32%
- ・子どもが泣いた時、白い目でみられた 30%

困っても我慢してしまう人が63%。
声をかけやすい社会とはいえない現状

自分一人ではどうしようもない時や周りに手を貸してもらいたいと思った時でも「我慢し一人で解決しようとする」人が最も多く62.6%。周囲に協力を求めようとする人は少なく、子連れ外出を暖かく見守って気軽に声を掛け合える社会とはいえない現状がうかがえる。

【表：7】 < 外出先で困った時どうしますか >



妊娠・子連れ外出に対して暖かい社会とはいえない現状

子連れ・妊娠中が外出する際の社会意識への要望

1. 外出先で手助けされたり、勇気付けられたりして嬉しかった体験

【上位3位】 N = 1069

- ・バスや電車で席を譲ってくれた(205)
- ・ベビーカーを運んでくれた/たたんでくれた(183)
- ・子どもをあやしてくれた/話しかけてくれた/見守ってくれた(121)

現状の手助け内容で多いのは「席を譲る」「ベビーカーの運搬を助ける」

- ・外出先で嬉しかった体験として多かったのが、「バスや電車で席を譲ってくれた」「ベビーカーの運搬やたたむのを手伝ってくれた」で200人前後があげている。意見の中で目立ったのが、ビジネスマンや高校生の男の子による手助けが多いというもので、逆に「意外に冷淡なのが中年女性」といった声が聞かれた
- ・その他、「子供をあやしてくれた、話しかけてくれた」「(母親に対して)声をかけてくれた」など声をかけたり、暖かく見守ってくれることに対する喜びも大きいようだ

2. 外出先で困ること、周囲に手助けしてもらいたいこと

【上位3位】 N = 1069

- ・階段の上り下り/エレベーターやスロープがない/段差が多い(225)
- ・バスや電車内で席を譲ってもらえない(93)
- ・歩きタバコ/タバコの煙/禁煙対策が遅れている(66)

困ること・助けてほしいことのトップは「階段の上り下り」。席を譲る、タバコ、一時預かり、トイレ整備も要望多い

- ・外出先で困ること、手助けしてもらいたいことは「階段の上り下りや段差」が圧倒的多数。まだ道路やお店、駅などのバリアフリー化は十分でなく、階段や段差を子連れやベビーカーを抱えて上り下りしなければならない厳しい現実がある
- ・次いで「席を譲ってもらえない」「タバコの害」「買い物やトイレなど用事を済ませる間だけの一時預かり」「子連れ対応トイレがない」などが上位

3. 子育てに対する周囲や社会の意識への要望

【上位3位】 N = 1069

- ・あたたかく見守って欲しい/迷惑がらないで欲しい(173)
- ・思いやりの心で接して欲しい/助け合える社会であるといい(94)
- ・エレベーター・スロープを増やして欲しい/段差をなくして欲しい(61)

具体的な施策よりも、とにかく「社会で暖かく見守ってほしい」という意識面への要望が最も強い

- ・「暖かく見守ってほしい」という要望が圧倒的に多く、また「思いやりの心で接してほしい」も次いで多い。段差や階段、タバコ、トイレなどの細かく具体的な要望も多数あるが、まずは基本となる意識面での協力が最も強く望まれていることがわかる